

山内家資料等を適切に管理し、調査研究に基づいた高知の歴史や文化の魅力を広く伝え、かつ立地を活かし地域振興、観光振興にも寄与する

要求水準－収集・保存

山内家資料及び別途定める収集方針に基づき収集した高知県の歴史・文化に関する資料を適切に保存する

評価項目

- (1) 山内家資料を核として、近世から近代に至る高知の歴史を特色づける資料を適宜収集する
- (2) 資料を毀損、滅失することなく、開館までに高知城歴史博物館に移転、配架し、公開承認施設の取得に向けた環境整備、劣化防止等の処置を適切に行う
- (3) 資料保存修復に関する年次計画を策定し、それに基づき着実に資料の修復を進める
- (4) 資料相談窓口を設けるなど地域における資料保存活動への積極的な協力をを行い、年1回以上の出張相談を実施する

状況説明

- (1) 個人所蔵者より寄贈2件4点、寄託1件 30 点の申し出を受け、資料リスト及び概要書を作成した。
 - <受入資料> 堅田氏寄贈資料 3点(山内豊景・禎子夫妻関係資料)
 - 花井氏寄贈資料 1点(後藤象二郎書幅)
 - 野崎家資料(寄託) 30点(明治初期戊辰・西南戦争関係資料)
- (2) 保存環境維持と展示公開の両立につとめ、公開承認施設の取得要件である他機関所蔵の国宝・重要文化財の借用展示に向けた取組みを行った。
 - ア 収蔵環境の調査と環境整備
 - ・収蔵庫内の温湿度・空気環境調査に加え、独自の環境調査を行った。
 - ・収蔵庫および書庫・一時保管庫を対象に殺虫・防カビを目的とする燻蒸を定期的に行ったほか、二酸化炭素による資料の包み込み燻蒸を実施した。
 - イ 公開承認施設の取得に向けた環境整備
 - ・開館以前から収集した温湿度データ等をファシリティーレポートとしてまとめ、館外からの資料借用に必要な水準を満たしていることを証明した。
 - ・展示室内および展示ケース内の温湿度・空気環境測定や照度調査を行い、資料に合わせた公開日数を設定することで、無休開館と資料の保存を両立した。
- (3) 山内家資料のうち、特に展示活用が期待される美術工芸品11件の修理を行った。
 - 【刀剣 1件】十文字槍
 - 【能面 8件】「頼政」「大飛出」など
 - 【甲冑 2件】「黒糸威溜塗胴丸」・2代忠義所用具足
- (4) その他
 - ア 保存協力
 - 電話・来館による個人所蔵資料に関する保存相談へ対応したほか、維新博地域会場からの協力要請に保存担当学芸員等が対応した。【個人・機関からの相談 合計 20 件】
 - ・牧野植物園展示ケース等の空気環境への助言(出張相談)
 - ・オーテピア開館準備に伴う環境調査等への助言(出張相談)
 - ・坂本龍馬記念館リニューアルに伴う環境調査等への助言(出張相談)
 - イ 修繕室の運用開始
 - ・館職員による環境調査や受入資料のクリーニングを行った。
 - ウ 保存説明会
 - ・視察受入のほか、文化財関係者向けのバックヤードツアーや県民向けの見学会等を企画し、博物館機能に関する情報発信を行った。
 - ・館内および黒潮町で県民を対象とした「資料整理保存講習会」を開催(館内 19 名、黒潮町 29 名)
 - ・開館1周年イベントの中で特別体験講座「文化財を伝える保存修復の“技”」を開催、古文書のつくり体験を行って資料保存の取り組みを情報発信した。(参加者 26 名)

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の寄贈・寄託の実績あり。展示活用が期待される美術工芸品の修理も実施した。 ・保存環境維持と展示公開の両立につとめ、他機関所蔵の国宝・重要文化財の借用展示の許可を得て、公開に向けた取組みを行うなど、公開承認施設となるために必要な実績をあげた。 ・資料保存修復に関し、蓄積した経験を同様の課題を抱える他機関へも還元できていると認められる。

評価項目

- (1) 資料調査成果の公開計画を策定し、それに基づき資料目録(データベース公開を含む)、展示等、多様な手段により広く全国に発信する
- (2) 日本の近世史研究の拠点として認識されることを目指し、研究者、専門家との協働を含め、資料の調査、研究を推進する。調査研究の成果については、毎年研究紀要等の刊行物により公表し、歴史や美術に関する学会、研究会等を誘致するための具体的な活動を行う
- (3) 調査研究の成果は、上のほか展示、講演、講座等、多様な手段により公開し、これに係る図録、小冊子等の刊行物については年2冊以上作成する
- (4) 山内家資料の基礎データの整理等により、国の重要文化財指定に向けた協力を行う

状況説明

(1) 資料調査成果の情報発信を実施

ア 閲覧室の運用

- ・研究者等による古文書閲覧のほか、県民や一般市民からの先祖調べや歴史的な質問に対し回答・調査協力した。
- ・過去に写真収集した市民図書館・県立図書館所蔵の郷土資料について、写真帳での閲覧に対応し、図書館閉館中の調査者を受け入れた。
- ・閲覧室利用者数 796 件(うち古文書原本閲覧申請 21 件、写真帳・閉架図書の閲覧申請 86 件)
- ・リファレンス対応 300 件(電話・手紙等による対応も含む)

イ データベースの公開・充実

- ・書庫の整理作業を進め、参考図書の登録・配架基準を定めてデータベースへ入力した。
- ・過去に調査した調査カードの入力作業を進め、情報の充実を図った。
- ・年譜類の索引データベース公開に向け、出納用情報の追加を実施した。

ウ 情報発信

- ・京都国立博物館主催の特別展「国宝展」へ国宝・古今和歌集巻第廿(高野切本)を貸出
- ・県立歴史民俗資料館の維新博関連企画展「後藤彦二郎」等6件の企画展に対し資料を貸出
- ・出版・テレビでの掲載のほか、自治体史や学習教材等での利用を目的とした資料画像貸出に対応し(83 件)、収蔵資料の公開・情報発信を進めた。

エ 古文書等の副本作成

- ・「容堂公印譜」「海鱗図」等、展示活用の頻度の高い図像資料を対象に、高解像度デジタル撮影を実施した。

(2) 歴史・美術・保存各分野の学芸員が、それぞれの専門分野に応じた調査研究活動を実施

ア 調査研究活動

- ・館外所在山内家・土佐藩関係資料の調査(県内4箇所)

イ 館外との協働

- ・宿毛歴史館と連携し、神奈川県所在の資料調査に専門協力
- ・平成 30 年開催文化財保存修復学会高知大会への準備協力
- ・高知大学との合同による土佐神社の御蔵整理作業

ウ 学会・研究会活動

- ・文化財保存修復学会大会でのポスター発表
- ・乗物の修理(27 年度に実施)に携わった職人・専門家達によるシンポジウム「女乗物を解き明かす－修理とその成果」を企画・主催した。
- ・科研研究会(基盤(B)原料由来の膠の性質と用途に関する研究)との共催による公開研究会「原料由来の膠(にかわ)の性質と用途」及びワークショップ「古典的膠を知る、作る、使う」の開催
- ・大名道具収蔵館研究会「贈答・拝領・献上」(幹事館: 仙台市博物館)への参加・報告
- ・国絵図研究会の当館開催、研究報告および資料公開協力
- ・科研研究会(基盤(A)日本染織コレクションの形成とその美術史的価値の確立に関する研究)による現地調査会に参加、研究報告(3回)
- ・現代龍馬学会総会における記念講演

エ 刊行物による公表

博物館開館に至るまでの議論やその結論となる建築物は、建築学だけでなく博物館学・文化財保存科学分野における一つの大きな事例研究成果である。そこで開館までの経緯と設計理念・設備概要をまとめた報告書『高知県立高知城歴史博物館 建築の記録』を刊行し、全国の博物館および都

- 道府県立博物館へ配布した。
- (3) 学芸員がそれぞれの調査研究成果に基づき、多様な展示・講座・講演等を実施
 - ・容堂所用の印全点を収録した図録『容堂印譜 へそまがり大名の自画像』の刊行
 - ・特別企画展図録『明治元年の日本と土佐—戊辰戦争 それぞれの信義—』の刊行
 - ・維新博特設会場内配布パンフレット『龍馬のいちばん長い手紙』の発行
 - (4) 館職員による基礎データ入力を進め、移転前に撮影した資料点検用記録画像の整理、昨年度調査を完了した山内文庫の情報入力を実施

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・研究者等による古文書閲覧のほか、県民からの問い合わせへの対応も数多く実施している。 ・館外の学芸員や専門家との交流・情報交換、共同開催の研究会を進めることができている。 ・歴史・美術・保存各分野の学芸員が、それぞれの専門分野に応じた調査研究活動を実施し、それぞれの調査研究成果に基づき、多様な展示・講座・講演等を実施することができたと認められる。

要求水準－展示・公開

収蔵資料等による展示活動及び関連事業により、歴史や文化に対する関心を深める

評価項目

- (1) 山内家資料を核として常設展、企画展を開催し、年間 10 万人以上の観覧者を目指す
- (2) 歴史や文化に対する関心を高めるとともに、公開承認施設の承認に必要な実績を重ねるため、他機関が所蔵する国宝・重要文化財等の公開に取り組む
- (3) ワークシートやデジタル機器類を用いた展示解説、関連行事等を企画展ごとに2件を目安に実施し、来館者の理解が深まる取組を充実させる

状況説明

(1) 休館日なく、常設展・企画展・特集展を開催した。(年間観覧者 188,049 人)

ア 企画展

- 「未来へひきつぐ美とかたち」
- 「文化部侍参上～武士たちの学問と芸能～」
- 「見性院没後400年記念 山内一豊と見性院」
- 「大政奉還150年記念 大政奉還と土佐藩」
- 「福を呼ぶ 城博のお正月」
- 「山内家のおひなさま」
- 「明治元年の日本と土佐～戊辰戦争 それぞれの信義～」

イ 特集展

- 総合展示室Ⅱは「志国高知 幕末維新博」メイン展示会場として整備した。
- 坂本龍馬書状を常時公開する「龍馬の手紙」コーナーおよび特集展を2ヵ月ごとに展開した。
- 「海援隊発進！～坂本龍馬のかけぬけた時代～」
- 「幕末・維新の言葉～山内容堂の主張～」
- 「黒船がやってきた！～いっしょに学ぼう、開国から明治へ～」
- 「『幕末』と『維新』～歴史教科書を読む～」
- 「よみ かき えがく 志士のころ」
- 「新時代の幕開け～土佐人の見た欧羅巴～」

(2) 館蔵の国宝「古今和歌集巻第廿(高野切本)」・重要文化財「長宗我部地検帳」「太刀 備前国長船兼光(一國兼光・今村兼光)」を展示公開したほか、高知県指定文化財「森田久右衛門江戸日記」高知市指定文化財「万葉集古義」を展示し、指定文化財が常時展示室で見られる体制を実現した。また、新発見の龍馬書状や京都文化博物館所蔵の寺田屋旧蔵の龍馬関係資料、個人蔵の刀剣など、館外からの資料借用を行い、3月の特別企画展では館外所蔵の国宝・重要文化財資料を借用する許可を得ることができた。

(3) 展示替えに合わせて音声ガイドコンテンツの入替・充実を行った。また、夏休みに常設展示室内で使用するワークシートを制作したほか、企画展・特集展に対応した配布資料や行事を開催した。

ア ワークシート

- ・全室共通「はくぶつかんシート」の制作・配布
- ・全室共通「みる・かく・よむかたち」の制作・配布および解説更新
- ・通史展示室「高知城のひみつをてっていぶんせき」の制作・配布
- ・特集展対応ワークシート・クラフトシートの制作・配布(4種類)

イ 印刷配布物

- ・展示資料・音声ガイドリスト(通史・特集・企画展示室用各1枚)
- ・特集展解説シートの印刷配布
- ・新年限定干支絵ハガキ・初夢獺カード・七福神カードの制作・配布
- ・ひな道具立版古の制作・配布および販売

ウ 企画展関連行事

- ・企画展担当学芸員によるスライドレクチャー・展示解説(31回)

- ・展示室投票イベント(3回)
- ・記念講座・講演会(8回)
- ・ワークショップ・映画会(8回)
- ・「幕末維新六講座」(3回)

エ 展示解説

解説員による案内対応のほか、団体等の依頼に対応しての展示解説にも対応(209件 4,619人)

オ デジタル機器類を用いた展示解説

- ・通史・特集・企画展各展に対応した音声ガイド(日・英・中(簡・繁)・韓・タイ・土佐弁)の運用
- ・企画展・特集展ごとに日・英版音声ガイドを追加更新
- ・やまびよん音声ガイド「黒船がやってきた!」の制作
- ・タブレットガイド操作画面の改善

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・山内家資料を核とする常設展に加え、維新博関連の特集展・企画展では館外からの借用も行い、魅力的な展示づくりを実施した。龍馬の手紙等、初公開資料も展示し、県内外からの注目を集め、多くの来館者を動員したことが認められる。 ・開館前から展示室・収蔵庫内の温湿度推移、空気環境測定を進め、指定品公開に適した展示室環境の維持を実現し、これらのデータを元に、公開承認施設の要件である館外所蔵の指定文化財借用実績を得たことは評価できる。 ・子供から大人、外国人を含めた幅広い来館者に対応できるよう各種コンテンツを整備し、開館後も充実・改善を進めるとともに、関連行事も展開し、展示解説を積極的に行い、来館者の理解を深めたことは評価できる。

評価項目

- (1) 幅広い年代が参加できる歴史や文化に親しむ講座や行事を企画し、講座等の種類として年間で6件以上実施する
- (2) 子どもたちが歴史や文化に触れる機会を充実させるため、教材研究への協力、出前授業、校外学習等を通じて初等教育、中等教育との連携を強化し、年間で10回以上の児童生徒と関わる事業を実現する
- (3) 博物館実習生やインターンシップの受入を行うなど、高等教育機関との連携を深めることにより、次世代の担い手の育成を支援する

状況説明

- (1) 教育普及活動としての企画・行事・講演を実施した。
 - ア 講座・催し物等の開催(5月～2月 毎週土曜日)
 - ・「城博講座」と題して、調査研究の成果を活かした各種講座を開催。
 - イ 歴史講座(4回/175名)、古文書講座(5回/294名)
 - 美術工芸講座(4回/94名)、保存修復講座(2回/36名)
 - 高野切講座(入門、中級各10回/367名)
 - 日本の文化講座(3回/121名)、整理保存講習会(2回/51名) 延べ40回、1,138名
 - 高野切講座受講生作品展を博物館1階の和室で開催(10日間/見学者223名)
 - ウ 日本の歴史や伝統文化を体験する講座を実施【小中学生対象】
 - わくわくたんけん高知城(8月/41名)、夏休み工作教室①イス作り(7月/12名)
 - 夏休み工作教室②和本作り(8月/8名)、みる・きく・さわる 和菓子作り(11月/24名)
 - 延べ4回 85名
 - エ 体験を通して、日本の歴史や文化を伝える講座を実施【外国人対象】
 - Japanese Cultural Experience～日本刀～(12月/19名)
 - オ 食や伝統音楽などを通して、日本の歴史や伝統文化に親しんでもらうための催事を開催
 - 梅漬けの会(6月/28名)、お月見の会(11月/30名)
 - お正月の会(1月/30名) 延べ3回 88名
 - カ 家族・親子を対象にしたワークショップ等を開催
 - 歴史文化体験コーナーの特設(5月GW、8月盆休暇/各200名)
 - ミュージアムツアー(3月1周年記念イベント/16名)
 - キ こども向け博物館利用案内の充実
 - ・博物館のHPに「じょうはくキッズページ」を設け、小中学生向けに博物館の利用案内を紹介
 - ク 体験道具類の整備・補充
 - ・幅広い年代・国籍の方に、気軽に歴史や文化に触れてもらうことを目的に体験用道具を整備
 - ・博物館3階展望ロビーの体験コーナーでは、時期によって道具の入替を行い、来館者に楽しんでもらうための工夫を実施。(陣羽織、変わり兜、高野切水書セット、貝合わせ等を順次入替)
- (2) 教材研究への協力、出前授業、校外学習を通じ、児童生徒と関わる事業を実施
 - ア 教育委員会との連携・協力
 - ・県教育委員会の各担当課等と連携・協力のあり方について意見交換を実施した。
 - ・県教育委員会高等学校課が編集・発行の『高知県の歴史』副読本の編集・執筆に協力した。
 - イ 教員の研修会・学習会への協力
 - ・県教育委員会、教育センターの研修会「教科研究センター講座(専門講座)」で、博物館の活用・当館の所蔵資料を活かした郷土の歴史学習について講義を実施。(教育センターとの共催)
 - 「学校の先生のための博物館の日」(11名)、「教科研究センター講座(専門講座)」(17名)
 - ・各市町村の教育研究所や教員が自主的に行う教育研究会の研修会での講義、見学の受入れ
 - 土佐市教育研究所 土佐市校長会研修会(10月/13名)

<p>高知県高等学校教育研究会 化学部会研修会 (11月/12名)</p> <p>高知県高等学校教育研究会 図書部会研修会 (12月/15名)</p> <p>高知県高等学校教育研究会 歴史部会研修会 (2月/10名)</p> <p>ウ 学校関係者向け博物館利用案内広報の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の教員向けに、博物館の活用方法をまとめた冊子を作成(H30.5に配布。HPにも掲載) ・博物館HP内に「学校関係のみなさまへ(仮称)」を開設するための準備を進めた。 <p>エ 学校見学の受入・出前授業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校見学の受け入れ 小学校 (65校/2,817名) 中学校 (29校/1,731名) 高等学校(27校/1,922名) 特別支援学校(12校/226名) 延べ133校、6,696名 ・博物館への来館が難しい学校に対して、出前授業を実施 小学校(2件/各15名) 中学校(1件/60名) 高等学校(県立高知北高等学校「特別講座」通年25回/各回29名) 延べ725名 <p>オ 教材資料の貸出・校外学習への協力、授業作りへの協力等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材資料の貸し出し(小学校15件、中学校7件、特別支援学校5件) ・学校の校外学習への協力(5校/約250名) ・授業作りへの協力(授業づくりに活用できる関連資料を提供や外部講師を紹介) <p>カ 児童クラブ・幼稚園等への学習協力</p> <ul style="list-style-type: none"> 見学の受入(児童クラブ4件/94名)(幼稚園・保育園3件/78名) 出前講座(児童クラブ3件/120名) <p>(3)高等教育機関との連携</p> <p>ア 学芸員資格課程との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> 高知大学の博物館学芸員資格課程との連携事業を継続し、3つの部門で実施した。 ・整理保存部門:襖の下張りを解体し、そこに使われている古文書を整理(3名/3回) ・教育普及部門:館周辺の地域の見どころを博物館的な視点で紹介するマップ作成(3名/3回) ・地域連携部門:土佐神社(高知市一宮)が所蔵する資料の整理・調査を実施(6名/4回) <p>イ 博物館実習生の受入</p> <ul style="list-style-type: none"> 博物館実習生の受入を行い、博物館における事業と運営の概要説明、保存・調査・展示・教育普及・地域連携の概説と実習、他館見学等を実施した。(1名/8日間) <p>ウ 職場体験・インターンシップの受入 中学生(1名/3日間)、高校生(1名/4日間)</p>
--

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い博物館の利用者層に対応するための講座・催事を精力的に開催したことは評価できる。 ・教員の研修会への協力、教材資料の貸出・校外学習への協力、出前授業など、さまざまな機会に学校が博物館を利活用できるように、教員への周知も積極的に行い、学校の利用に供したことが認められる。 ・博物館実習や職場体験、インターンシップを受け入れ、博物館の業務についての実習を行うことができています。

評価項目

- (1) 歴史文化情報の提供や職員の派遣による地域の文化活動への協力により、県内各地の歴史や文化による交流を支援する
- (2) 地域の歴史・文化をテーマとした展示及び関連行事の準備を進め、5年間のうちに開催するほか、観光客の受入体制の充実を図り、県内外の文化施設等とも連携して県内各地への人の流れを生むような情報提供に努める
- (3) 周辺文化施設及び高知市中心部の諸団体と協力し、連携企画の実施、新たな行事の創出の提案等、博物館周辺エリアにおいて歴史や文化を切り口とした観光資源の充実に努め、回遊人口の拡大を目指す

状況説明

(1) 歴史文化情報の提供や職員派遣による地域文化活動への協力

ア 歴史文化情報の提供

- ・高知県内 1,000 ヶ所以上に及ぶ江戸時代の村単位で、地域の歴史文化情報を閲覧できる「小村データ」を作成し、閲覧室において通年で公開した。
- ・高知県情報コーナー・城下町情報コーナーにおいて、県内の文化施設情報をはじめ、各地域の歴史・文化・観光に関する情報を発信した。

イ 地域の歴史文化活動への協力

- ・学習会等への講師派遣を実施し、地域の歴史に関する講演を行った。
県立梶原高等学校(25名)、布師田地区(50名)、長浜地区(50名)、香美・香南地区(50名)

ウ 地域の歴史文化の紹介・普及

- ・地域の歴史を講座と見学会で紹介する「地域散策会」を開催した。
本山町の白髪山をテーマとして、勉強会(80名)と現地の見学会(21名)を開催した。
- ・県木材普及推進協会と連携し、5月と11月に土佐材を使ったワークショップを開催した。(186名)

エ 地域連携事業の周知広報

- ・地域関係の事業内容を紹介するパンフレット『地域の歴史と文化の？に高知城博が答えます！』を増刷し、館内外に配布した。
- ・館HPにおける「地域連携」ページ「地域とともに」で、地域関係事業の情報を発信した。

(2) 地域の歴史・文化をテーマとした事業

ア 地域資料への調査協力

- ・黒潮町の個人所蔵資料の調査に協力
- ・椙本神社(いの町)所蔵資料の調査に協力し、その成果を神社で開催された正月企画展で公開
- ・高知大学の学芸員資格課程との連携事業の一環として、高知市の土佐神社所蔵資料を調査
- ・県立丸の内高等学校との連携事業として、佐川町の個人所蔵資料を調査
- ・特別企画展の関連行事として、県内外を対象に幕末から明治初期にかけての歴史資料の情報提供の呼びかけを行い、随時、個人所蔵資料の調査等を実施した。

イ 地域歴史文化の調査研究

- ・県内各市町村を会場に、学芸員が地域の歴史を紹介する「出張講座」を開催した。
いの町本川地区(26名)、黒潮町上川口地区(29名)
- ・地域の歴史文化の調査研究活動として、『地域記録集 土佐の村々』を継続して発行した。
29年度は、第1号その2及び第3号の増刷。館内外で配付。

ウ 地域の歴史文化展の開催準備

- ・地域資料調査の成果公開の一環として、仁淀川町別枝地区で「秋葉まつりの里 仁淀の歴史展」を開催。同地区の中越家資料から見える地域の歴史を紹介した。(9日間、537名)
- ・企画展示室にて、県内各地の歴史文化に関する企画展の開催を予定。仁淀川流域を対象とした基礎調査を開始しており、流域に関する歴史・文化・民俗誌的な文献等の調査を実施した。

エ 連携体制の維持・整備

- ・県内市町村の地域振興・観光振興関係部署等との意見交換を積極的に実施した。
- ・県内最大の連携組織「こうちミュージアムネットワーク」の事務局を務めた。
- ・江戸時代を主要なテーマとして活動する歴史系博物館による連携組織「土佐藩・土居関係資料所蔵博物館連携協定」の事務局を務めた。
- ・明治維新 150 年の動きに関する連携組織「明治維新 150 年高知県ミュージアム連絡協議会」の事務局を務めた。同協議会では、『幕末維新の土佐 探訪図会』、『幕末維新の土佐 人物紹介』の増刷・配布及び県内外での学芸員による巡回講座を実施。

(3) 周辺文化施設及び高知市中心部との連携

ア 高知市中心部との連携・協力

- ・高知市中心部の関係者との協議や意見交換を積極的に実施。これら意見交換の成果も踏まえ、高知市中心部に関する情報発信や商店街と連携協力した活動等を実施した。
- ・城下町情報コーナーで、城下町の歴史や見所、高知城や商店街で行われる催事等を、映像や印刷物により、県民や観光客に対して情報発信した。
- ・子ども向け印刷物「高知城探検パンフレット」、「城下町探検パンフレット」を作成・配布
- ・商店街が行う「土曜夜市」に7月の毎週(計 5 回)参加し、歴史体験コーナーのブースを出展
- ・商店街及び高知商工会議所が主催の「得する街のゼミナール(まちゼミ)」に初参加
和室で茶道の体験講座を開催した。(18名<2回>)
- ・実習室にて日曜市で出会える食材を使った「日曜市料理教室」を開催。講師は県域全体の食の関係者からの協力を得ている。(173名<9回>)
- ・県内の民俗行事を高知市中心部で紹介する催事「お城下で見る土佐國」を開催
館や高知城や商店街、中央公園において、仁淀川町に伝わる秋葉まつりを実演。(約 3,000 名)
- ・高知市中心部の文化施設の連携組織「高知お城下文化施設の会(お城下ネット)」の事務局を勤めた。「第1回お城下文化の日」を開催し、高知城追手門前で合同ワークショップを、各施設で資料の公開やバックヤードツアー等の特別企画を実施した。(約 660 名)
- ・文化施設マップや催事カレンダーをまとめた「平成30年度お城下文化手帳」を編集・発行。

イ 各種文化団体の誘致準備

歴史や文化を活かした地域振興・観光振興に関して参考になる、第 15 回全国藩校サミット金沢大会に参加

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・地域へ職員を派遣しての講義や地域資料への調査協力、地域の歴史文化の紹介や普及活動など、歴史や文化による交流促進につながる活動を展開したと認められる。 ・県内市町村の地域振興・観光振興関係部署等との連携、文化施設等との連携組織への参加など、連携体制を作り事務局を務め、連携組織による講座やイベント活動を展開したと認められる。 ・高知市中心部の諸団体との継続的な交流により、情報発信や催事等の従前からの活動に加え、まちゼミへの参加やお城下文化の日の開催など、新たな取り組みも実施していることは評価できる。

評価項目

広報計画に基づき、館のホームページや広報誌、チラシその他メディア等も駆使した効果的な情報発信を行い、ホームページアクセス数やアンケート調査等を参考に、常に広報効果の検証を行う

状況説明

- ・時期や対象層に応じた広報を、幕末維新博広報との連動、相乗効果を図りながら計画・実施した。
- ・パンフレットや年間展示スケジュールリーフレット等で博物館の見どころや企画展等の開催情報を周知
- ・ホームページを活用し、企画展や講座・催し物等の開催情報を随時発信。また、建物外構に展示や講座・催し物の掲示物を展開し、通行者等への周知も実施した。
- ・博物館の活動や喫茶室やミュージアムショップの情報などを網羅した定期情報誌の第一号を発行。
- ・新聞・雑誌広告、交通広告などの各種広告を組み合わせる効果的なタイミングで情報発信を実施。
- ・メディアに向けて、企画展や催しに合わせてプレスリリースを実施。大政奉還150年記念企画展と明治150年特別企画展にあわせて開展式と内覧会を実施。大政奉還150年関連特集展の際は、幕末維新博広報と連携して県外メディアまで対象とした記者説明会を行い、全国へ向けて情報発信。また、観覧者5万人、10万人、15万人にあわせて達成記念企画を行い、メディアへの露出拡大を図ったほか、県と連携した全国メディア(テレビ・ラジオ・雑誌等)の取材対応を行い露出拡大に取り組んだ。
- ・県教育委員会高等学校課等と連携した企画を開催し、学生文化活動と協力して誘客を図った。
- ・年末の誘客促進のため、正月特別行事として、12月には門松づくりの実演会、1月には特別講座、新春茶会、歴史文化体験コーナー、土佐女子高校邦楽部による演奏会、県立高知小津高校書道部による書き初め、県立安芸中・高および土佐中・高生徒による新春百人一首を実施した。
- ・開館1周年記念催事「城博の日」として、記念講話、設計者による建築マスターツアー、特別講演会を実施。地域連携事業であるお城下で見る土佐の國「秋葉まつり」等も記念催事の一つとして実施することで、1周年の博物館を強く訴求するとともに来館者拡大につなげた。
- ・ゴールデンウィークと正月特別行事の際には、マスコットキャラクターの登場もを行い、来館者誘致を図った。また、こうちまんがフェスティバルにも登場させ外部イベントでのPRを実施した。
- ・高知城からの誘客増加を図るために、高知城敷地内に博物館紹介看板を設置した。
- ・団体ツアー客をはじめとした観光客誘致のために、県観光コンベンション協会主催の観光説明会に参加し、旅行会社関係者に向けて館の情報提供および旅行商品造成の協力を行った。
- ・高知市中心商店街土曜夜市、こうちまんがフェスティバルにブース参加し、館の認知向上を図った。
- ・来館者数統計や来館者アンケート調査をもとに観覧者層の内訳や動向を鑑みながら、効果的な広報の取り組みの見直しを随時行っている。またホームページのアクセス解析による効果測定をもとに、WEBを活用した効果的な情報発信も随時検討、実施している。

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・メディアに向けて、企画展や催しに合わせてプレスリリースを実施。特集展は、幕末維新博広報と連携して県外メディアまで対象とした記者説明会を行い、全国へ向けて情報発信したと認められる。 ・広告等による情報発信と時期に応じた広報イベントを組み合わせ、積極的に広報・誘客活動を実施していることは評価できる。

要求水準－施設管理

施設及び設備の適切な保守管理をとおして、故障や事故のない運営を行う

評価項目

(1) アンケート等により入館者からの意見を積極的に収集し、清掃や警備、設備管理その他館内外の利用環境に関する効果的な改善策を実行し、利用環境の向上に努める

状況説明

・館内の数カ所にアンケートボックスを設置し、収集したアンケートは定期的に集計し、職員全体に内容を周知するとともに、対応が必要と判断したものについては館内で協議し、利用環境の向上に努めている。

評価	理由
A	・アンケートによる来館者意見を館の運営に反映させるなどの取組が認められる。

評価項目

(2) 安全な利用環境を保ちながら、光熱水費を含む維持管理経費については年度ごとに分析を行い、経費削減に取り組む

状況説明

・光熱水費についてはデータの蓄積を開始しており、今後分析をしていく。
・その他、各設備の保守管理については、入札を行うなど最適な業者との契約を進めている。

評価	理由
B	・適正な維持管理に努めていると認められる。

評価項目

(3) 観覧者、講座等利用者確保のほか、貸出施設についても利用を促進することで収入を確保し、管理費や事業費の削減と合わせ収支のバランスを維持する

状況説明

・開館直後の広報活動に注力し、展示や講座の日程・内容等を発信することで観覧者増を図った。
・観覧者数は 188,049 人であり、目標を上回る観覧料収入を確保できた。
・貸出施設について、HP などで情報を発信した。

評価	理由
A	・見込みを上回る観覧者、収入実績があった。

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・「志国高知幕末維新博」関連の特集展・企画展を多数開催し、観覧者数は 188,049 人と目標を大幅に上回っている。 ・ワークシートやデジタル機器を活用し、観覧者がより理解を深める工夫を行っている。 ・各学芸員が、実施した調査研究活動の成果を、展示、講演、講座、刊行物等の様々な形で公開している。 ・幅広い利用者層に対応するための講座・催事を精力的に開催している。 ・教員の研修会への協力、教材資料の貸出、出前授業等、学校現場との連携・協力が積極的に行われている。 ・県内各地の歴史や文化による交流を支援するため、講師派遣や調査協力等を多数実施している。 ・高知市中心部の諸団体や地域振興・観光振興関係部署、文化施設等と連携し、市中心部での「秋葉まつり」実演や「お城下文化の日」を開催する等、観光振興に供する取り組みを行っている。 ・メディアへのプレスリリースや時期に応じた広報イベントを行う等、積極的な広報・誘客活動が実施されている。 <p>以上のことから、要求水準を上回る成果があり、優れた管理運営・事業の遂行がされたと認められる。</p>

評価基準

- 「A」 要求水準を上回る成果があり、優れた管理運営・事業の遂行がされた。
- 「B」 概ね要求水準どおりであり、適正な管理運営・事業の遂行がされた。
- 「C」 要求水準に達しない面があり、改善のための工夫や努力が必要。
- 「D」 管理運営・事業の遂行が適正に行われたとはいえ、大いに改善を要する。